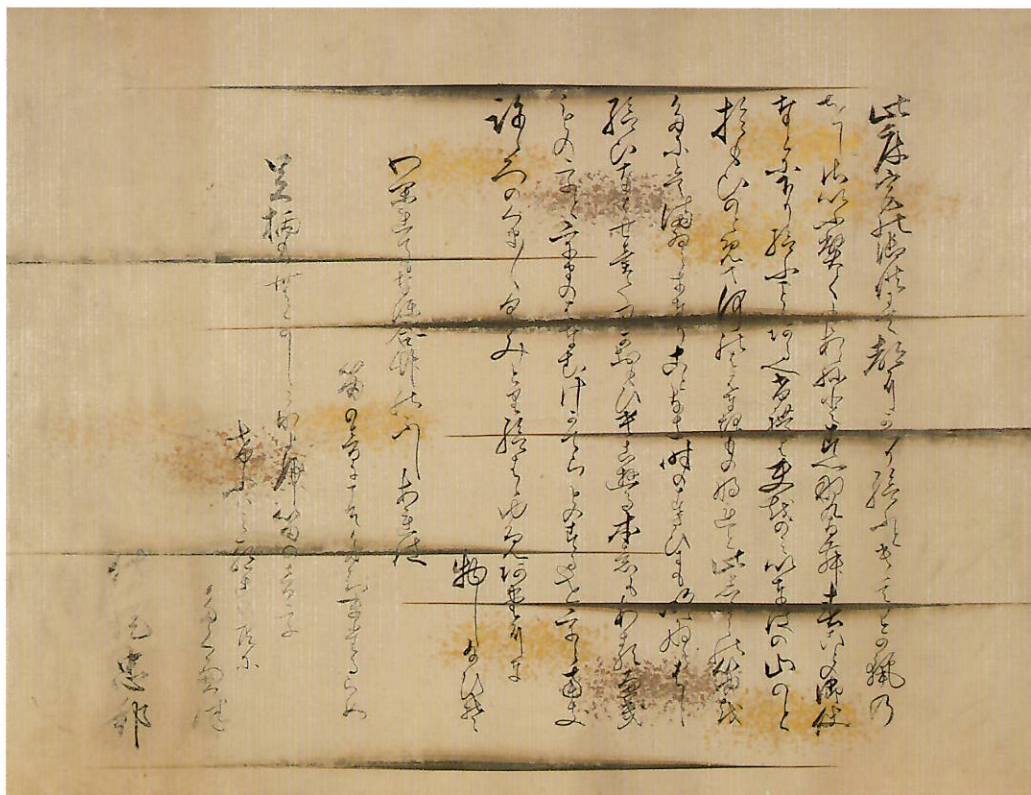




水野忠邦筆 和歌懷紙「わかれても」云々

目 次

博物館のあゆみ

平成16年度	2
平成17年度	7
博物館の名品	13

博物館のあゆみ

平成 16 年度

館 内 業 務

1. 特別展

○特別展「徳川將軍家ゆかりの人形とひな道具」

会期＝平成16年2月28日～4月4日

財徳川記念財団と共催。天璋院・和宮の遺愛品に旧伯爵寺島家の伝世品を展示。

特別協力は静岡鉄道株式会社。

○特別展「徳川將軍家ゆかりの人形とひな道具」

会期＝平成17年3月3日～4月5日

財徳川記念財団と共催。徳川宗家と吉兆庵美術館の特別協力を得て、大徳川家伝来の御所人形を中心とし、ひな道具約100点を展示。

2. 平常展

○会期＝平成16年4月5日～平成17年3月2日

館蔵の美術工芸品に財徳川記念財団所蔵の書画を合わせ展示。適宜展示替。

3. 資料の寄贈

○平成16年4月17日、鎌倉市の吉田茂穂氏より、絹本着色東照大権現像壱幅の寄贈を受けた。

4. 刀剣鑑賞会の実施

○平成16年5月16日、元京都国立博物館主任研究官稲田和彦氏の依頼により館蔵の刀剣鑑賞会を実施。参加者京都市伏見医師会会員13名。

○平成16年11月6日、清水銀行の依頼により館蔵の刀剣鑑賞会を実施。参加者草薙刀剣会会員19名。

5. 館報第 18 号の発行

○平成16年9月17日、平成14・15年度の博物館のあゆみを報告する「館報第18号」を発行し、関係諸機関に配布。

館 外 業 務

1. 資料の出品

○「新選組展」

①会期・平成16年4月3日～5月23日

会場・江戸東京博物館

②会期・平成16年6月5日～7月19日

会場・京都文化博物館

徳川慶喜像及慶喜筆「間宮魁像」を出品。

○特別展「徳川將軍家の遺宝」

会期・平成16年6月13日～7月11日

会場・浜松市美術館

東照大権現像・徳川慶喜と家達像、重文洋時計・硯箱・和剤局方等56件を出品。

○「將軍 徳川家十五代展」

会期・平成16年7月23日～9月5日

会場・福岡市美術館

重文太刀三池作・齒朶具足・鞍，金扇馬標・貫衆具足・星兜・軍帽・刀忠広作・刀正広作・徳川秀忠消息・徳川家基画を出品。

○特別展「孝明天皇－光芒残照 明治の御代へ－」

会期・平成16年10月16日～11月28日

会場・明治神宮文化館

徳川家茂書「養其神」と徳川慶喜書「愛敬」を出品。

2. 静岡県文化財保存協会総会

期日・平成16年5月26日

会場・静岡県社会福祉会館

平成16年度総会が開催され、小林学芸部長が出席。

3. 静岡県博物館協会総会

期日・平成16年5月28日

会場・静岡県立美術館

平成16年度総会が開催され、小林学芸部長が出席。

4. 大名道具収蔵館集会

期日・平成16年11月24日

会場・徳川美術館

第13回集会が開催され、小林学芸部長が出席。

5. ミュージアム・マネジメント研修会

期日・平成17年3月7日～9日

会場・国立科学博物館

平成16年度研修会が開催され、斎藤学芸員が参加。

庶務報告

1. 平成16年度入館者状況

区分 月	大人	小人	団体	ロープウェイ と共通	クーポン	無料	計
4月	3,161	273	1,206	161	319	29	5,149
5月	3,698	384	945	306	446	33	5,821
6月	2,142	67	1,635	188	240	11	4,283
7月	1,930	185	944	97	195	9	3,360
8月	2,655	489	493	181	238	36	4,092
9月	2,350	90	1,019	218	265	10	3,952
10月	2,687	261	1,353	251	291	9	4,852
11月	3,438	142	1,315	432	328	60	5,715
12月	1,626	86	495	145	121	15	2,488
1月	3,766	381	607	377	147	31	5,310
2月	2,712	217	923	406	123	18	4,399
3月	4,577	424	843	466	286	272	6,868
計	34,742	3,000	11,787	3,228	2,999	533	56,289

2. その他

- 4月1日、名古屋市博物館小川幹生氏が資料の返品に来館。本日付けで権祿宜斎藤曜を学芸員兼務とする。
- 4月3日、オフィス・トゥ・ワン制作部が家康の武術に関する取材・撮影に来館。
- 4月5日、特別展撤収のため徳川記念財団柳田直美・徳川典子両氏来館。
- 4月6日～7日、特別展の資料返品のため、小林学芸部長が徳川宗家へ出向。
- 4月12日、5月10日及6月1日、浜松の特別展図録の編集会議（於徳川記念財団）に小林学芸部長が出席。
- 4月14日、同上展の用務にて小林学芸部長が奈良の長谷寺へ出向。
- 4月28日～29日、資料撮影に艸藝社石神守氏等来館。
- 6月10日、浜松市美術館加藤正寿氏・静岡新聞社石田氏が資料搬出のため来館。
- 6月11日～12日、特別展「徳川将軍家の遺宝」の飾り付けのため小林学芸部長が浜松市美術館へ出向。
- 6月13日、同上展開催式に落合館長・藤田副館長が出席。
- 6月17日、SBS ラジオ「みみよりアカデミア」で小林学芸部長が特別展を紹介。
- 6月24日、タイ国の某放送が日本の歴史文化を紹介するため、当館を取材・撮影。

- 6 月 28 日、特別展の展示替えに小林学芸部長が浜松市美術館へ出向。
- 7 月 2 日、読売新聞西部本社事業部次長大野洋一氏・福岡市美術館岩永悦子氏が資料借用に来館。
- 7 月 5 日、館内の温度を 23℃に変更。
- 7 月 6 日、深夜落雷により火災報知器・電話等故障。
- 7 月 7 日、福岡の特別展用務で小林学芸部長が東京国立博物館へ出向。
- 7 月 8 日、能美防災が機器等を点検。
- 7 月 12 日～13 日、特別展資料撤収のため小林学芸部長が浜松市美術館へ出向。
- 7 月 14 日、浜松市美術館細井敏夫氏が資料返品に来館。
- 7 月 21 日～23 日、「将軍 徳川家十五代展」の飾り付けのため小林学芸部長が福岡市美術館へ出向。
- 7 月 27 日、江戸東京博物館学芸員市川寛明氏・NHK プロモーション田中明美氏が資料返品に来館。
- 7 月 30 日、故障の防犯装置を修繕。
- 8 月 6 日、館報編集等のため、小林学芸部長が艸藝社へ出向。
- 8 月 10 日、静岡市高松中学生 3 名が個人研究のため来館。
- 8 月 15 日～16 日、特別展の展示替えのため、小林学芸部長が福岡市美術館へ出向。
- 8 月 26 日、徳川記念財団学芸員徳川典子氏が展示替えに来館。空調機器点検。
- 9 月 8 日～9 日、特別展の資料撤収のため、小林学芸部長が福岡市美術館へ出向。
- 9 月 12 日、読売新聞西部本社事業部次長大野洋一氏・福岡市美術館学芸員岩永悦子氏が資料返品に来館。
- 10 月 21 日、静岡安倍川中学 1 年の堀井・鈴木両君が校外学習に来館。
- 11 月 18 日、清水興津中学生が校外学習に来館。
- 12 月 2 日、小林学芸部長が横浜の下平家コレクションを調査。
- 12 月 3 日、中村敬三氏・戸川隼人氏・高桑史子氏等 6 名が島左近の兜の件で来館。
- 12 月 5 日、暴風雨のため、博物館の竹垣が破損。
- 12 月 16 日、館内の温度を 20℃に変更。
- 12 月 27 日、能美防災が器具を点検。
- 1 月 14 日、特別展の打ち合せ会議（於徳川記念財団）に小林学芸部長が出席。
- 2 月 3 日、SBS 報道制作局が重文目器を取材撮影。
- 2 月 22 日、ホールマンディレクター武田真吾氏が重文鉛筆の取材・撮影に来館。
- 3 月 3 日、特別展の取材に静岡新聞編集局名倉正和氏、静岡朝日テレビ報道部小林真子氏、中日新聞静岡総局渡辺正夫氏、静岡第一テレビ望月氏、SBS 静岡放送鈴木吉彦氏が来館。
- 3 月 14 日、SBS 静岡放送原木雅雄・倉城裕美両氏が久能山絵図の取材・撮影に来館。

○3月31日、朝日エンジニアリングが空調のフィルターを交換。

○その外、この期間に下記の人々が来館した。

田口良成氏（可児市田口美術、4月1日）、徳川義宣氏（徳川美術館長、4月17日）、鵜田孝一氏（艸藝社代表取締役、4月17日）、馬場高夫氏（長篠城趾史跡保存館長、4月28日）、岩山欣司氏（鳳来町教育委員会、4月28日）、松平乗昌氏（霞会館資料展示委員会副委員長、4月28日及11月19日）、守山郷土研究会（5月16日）、大野洋一氏（読売新聞西部本社事業部次長、5月19日）、岩永悦子氏（福岡市美術館学芸員、5月19日）、中里重幸氏（東金市、5月21日）、細井敏夫氏（浜松市美術館、5月25日）、米田実氏（SBS学苑本部局長、5月28日）、植松俊男氏（日通静岡美柵、6月3日及12月21日）、神馬氏（東海大学自然史博物館、6月5日）、海野宏之氏（日本美術刀剣保存協会、6月7日）、鎌田英己氏（静岡県文化課、8月19日）、渡辺信氏（東海大学助教授、9月2日）、石川嘉延氏（静岡県知事、9月11日）、松本稔章氏（静岡県文化課、9月11日）、静岡市横内小学校6年生114名（9月22日）、風間秀夫氏（9月29日）、阿部正紘氏（霞会館資料展示委員会、10月9日及12月4日）、大口裕子氏（同上、10月9日）、吉田さち子氏（同上、12月4日）、小野瀬和男氏（群馬県立歴史博物館、11月7日）、斎藤氏一行20名（菊川町教育委員会、11月18日）、徳川斉正氏・真木氏（勸水府明德会会長夫妻、1月2日）、菊田和男氏（東照宮旧職員、1月9日）、田中文雄氏（静岡県立中央図書館、1月10日）、稲田和彦氏（元京都国立博物館主任研究官、1月14日）、中村美奈子氏（SBS報道制作局、1月28日及2月3日）、牧野克彦氏（同上、2月3日）、荒木常治氏（京都科学工芸部、2月18日）、島畑氏他13名（信州大学、2月23日）、徳川典子氏（徳川記念財団、3月1日・2日）、徳川恒孝氏・幸子氏（同上、3月2日）、広瀬公威氏（同上、3月14日及25日）、柳田直美氏（同上、3月14日）、馬場高夫氏（長篠城趾史跡保存館長、3月15日）、吉兆庵美術館長（3月25日）。

平成17年度

館 内 業 務

1. 特別展

○特別展「徳川將軍家ゆかりの人形とひな道具」

会期＝平成17年3月3日～4月5日

（財）徳川記念財団と共催。特別協力徳川宗家・吉兆庵美術館。御所人形の優品を多く展示。

○特別展「徳川將軍家ゆかりの人形とひな道具」

会期＝平成18年3月3日～4月6日

（財）徳川記念財団と共催。大徳川家伝来（鷹司家・越前松平家旧蔵）の内裏びな等を特別に公開。徳川宗家・国立歴史民俗博物館の優品を多数展示。

2. 特別展観「徳川家康の肖像画」

会期＝平成17年12月26日～平成18年1月25日

造替10周年を記念し、（財）徳川記念財団の特別協力を得て開催。將軍家伝来の礼拝像・夢想像等に当館の伝世品を加え、20幅の権現像を展示。

3. 平常展

○会期＝平成17年4月6日～12月25日

○会期＝平成18年1月26日～3月2日

館蔵の優品に（財）徳川記念財団の蔵品を加え展示。適宜展示替。

4. 資料の寄贈

○平成17年9月22日、静岡市の牧野英一氏より、太刀（小鳥丸写）＜現代刀＞壺口の寄贈を受けた。

特別展観 徳川家康の肖像画

当館が所蔵する家康像を一堂に展示公開したのは初めてのことであった。

東照大権現像 1幅 紙本着色 縦95.2 横44.3cm

緋綱縁の上畳に茵を置き、その上に威儀を正して座す像主は徳川家康である。垂櫻の冠を被り、官位が四位以上であることを示す、穀織で古様の三葉葵紋を散らした有文の黒袍を召して笏を手にし、有文の表袴をつけた腰には唐鐔の儀杖用の太刀を平緒にて結びつけて佩く、いわゆる文官の朝服である束帯姿に描かれている。神殿風の上部に巻き上げられた御簾と帽額を、欄杆の内に破邪の瑞獣である獅子（阿形）と狒犬（吽形）を配しており、家康歿後に礼拝のため筆にされた神像と認められる。絵師の名は定かでないが、像主の晩年の容貌をよく伝えており、天海大僧正の賛は写しとはいえ、江戸時代もあり下らぬ作であろう。天海大僧正賛「東照大権現、我滅度後、於末法中、現大明神、広度衆生、山門三院執行探題、大僧正天海（花押）。



館 外 業 務

1. 資料の出品

○特別展「香道への誘い」

会期・平成17年4月28日～5月29日

会場・笠間稲荷美術館

重文鶯蒔絵香具箱（小箱3合入）・伽羅を出品。

○特別企画展「将軍 徳川家康公の生涯」

会期・平成17年6月6日～8月30日

会場・英国ロイヤル・アーマリーズ、リーズ館

金扇馬標・水艸立鷺図・角頭巾形兜・手袋を出品。

○特別展「時代をつなぐ写真」

会期・平成17年10月15日～11月23日

会場・香川県歴史博物館

パノラマカメラ・ブレモカメラを出品。

○大河ドラマ『功名が辻』特別展「山内一豊とその妻」

会期・平成17年12月23日～平成18年2月5日

会場・江戸東京博物館

大黒頭巾形兜（徳川家綱寄進）と薙刀国宗（附拵）を出品。

○特別展「戦国武将のよそおい―異形兜から祐乗目貫まで」

会期・平成18年1月5日～2月6日

会場・勸佐野美術館

重文齒染具足を出品。

2. 静岡県博物館協会総会

期日・平成17年5月31日

会場・静岡県立美術館

平成17年度総会が開催され、小林学芸部長が出席。

3. 私立美術館会議総会

期日・平成17年7月4日

会場・ブリヂストン美術館

平成17年度総会が開催され、落合館長が出席。

4. 大名道具収蔵館研究会

期日・平成17年11月15日～16日

会場・彦根城博物館

第14回研究会が開催され、小林学芸部長が出席。

5. 全国博物館大会

期日・平成17年11月17日～18日

会場・江戸東京博物館

第53回大会が開催され、落合館長・斎藤学芸員が出席。

6. 博物館指導者研究協議会

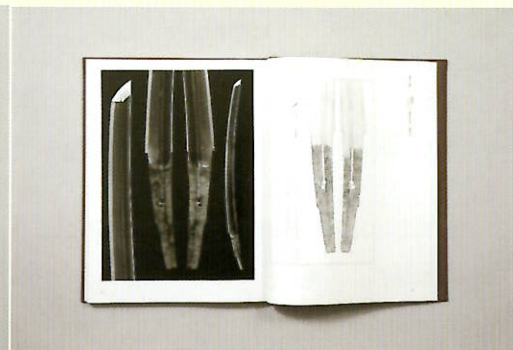
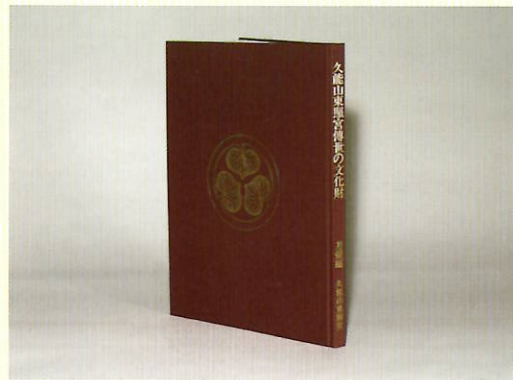
期日・平成18年1月19日～20日

会場・東京国立博物館

平成17年度協議会が開催され、小林学芸部長が出席。

『久能山東照宮傳世の文化財 刀剣編』

特別販売のご案内



平成6年3月30日、廣井雄一氏監修執筆・渡邊妙子氏・福士繁雄氏協力の下に刊行致しました当館蔵刀調査報告書図録『久能山東照宮傳世の文化財刀剣編』を特別販売いたします。

●B4判変形(縦34.5×横25.7cm)・背角上製本(表紙布クロス、箔押)・ケース(クリームボール)・総頁176頁(白黒図版44点、一部押型入、カラー図版60点、拵・刀袋・他、解説、刀剣用語入)・大塚巧藝社製作。特別頒価¥16,000(税・送料含)

ご希望の方は当館学芸部までお申し込み下さい。

電話 054-237-2437

残部僅少のため品切れの節はご容赦下さい。

庶務報告

1. 平成17年度入館者状況

区分 月	大人	小人	団体	ロープウェイ と共通	クーポン	無料	計
4月	3,345	246	545	469	255	27	4,896
5月	3,678	298	818	682	405	51	5,932
6月	1,875	99	1,026	428	236	10	3,674
7月	1,852	172	611	249	153	7	3,044
8月	2,906	496	681	537	198	11	4,829
9月	2,139	97	899	516	264	5	3,920
10月	2,398	151	1,490	369	340	18	4,766
11月	2,400	101	1,637	604	352	11	5,105
12月	1,473	101	316	251	79	19	2,239
1月	3,194	315	486	254	170	142	4,561
2月	2,028	117	858	389	116	11	3,519
3月	4,117	391	1,387	627	323	96	6,941
計	31,405	2,584	10,763	5,375	2,891	408	53,426

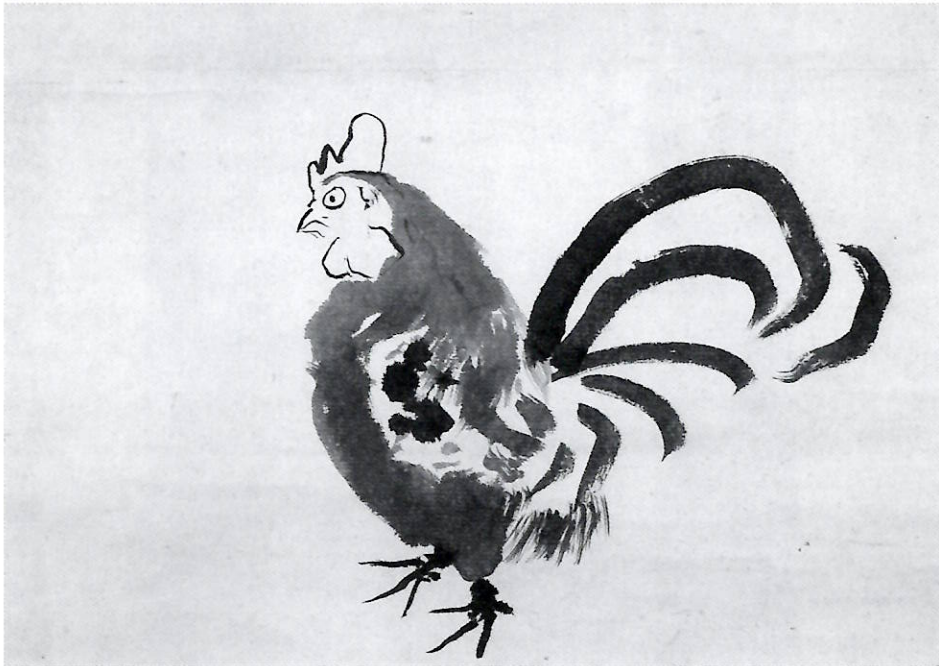
2. その他

- 4月4日～5日、中日新聞静岡総局記者土屋善文氏が取材に来館。
- 4月6日、(財)徳川記念財団学芸員柳田直美・徳川典子両氏が特別展の資料撤収に来館。
- 4月7日、資料返品のため、小林学芸部長が鎌倉・東京へ出向。
- 4月22日、SBS 報道制作局の中村美奈子・牧野克彦両氏が重文洋時計・目器・白檀塗具足を取材・撮影。
- 5月5日、子供の日にあたり、小学生のみ入館料を無料とした。
- 5月12日、「近代美術をになった日本画家たち展」(於駿府博物館)の開催式に小林学芸部長が出席。
- 6月7日、静岡朝日テレビディレクター今本高司氏が取材に来館。
- 6月8日、静岡朝日テレビ、重文洋時計を撮影。
- 6月10日、能美防災、器具を点検。
- 6月16日、日本博物館協会評議員会(於商工会館)に落合館長出席。
- 6月23日、館内の温度を23℃に変更。
- 6月30日、9月6日及10月25日、(財)徳川記念財団学芸員徳川典子氏が資料の展示替えに来館。

- 7月6日、静岡新聞が勸徳川記念財団の展示品を取材。
- 7月19日（於NHKプロモーション）、9月12日（於静岡県立美術館）、及び9月26日（於NHK事業局）、NHK大河ドラマ特別展「山内一豊とその妻」の企画会議に小林学芸部長が出席。
- 7月19日～22日及び7月25日～29日、防虫等保存研修会が東京国立文化財研究所で開催され、斎藤学芸員が受講。
- 7月21日、空調機を修理。
- 9月6日及び7日、読売新聞記者西口大地氏が取材に来館。
- 9月14日、静岡朝日テレビが家康像と重文白檀塗具足を取材・撮影。
- 9月15日、造替 10 周年記念展示の件で、小林学芸部長が勸徳川記念財団へ出向。
- 9月22日、清水の山崎進氏が家蔵資料の件で来館。
- 9月25日、静岡県立美術館長下山肇氏の葬儀（於はなぞの会館）に落合館長が参列。
- 9月30日、徳川美術館開館 70 周年記念式典に藤田副館長が出席。
- 10月26日及び31日、「山内一豊とその妻」展の用件で、小林学芸部長が京都（隣華院・春光院・霊洞院）と掛川市教育委員会等へ出向。
- 11月1日、新居町の疋田恭三氏が家康文書の件で来館。
- 11月3日、勸徳川記念財団の徳川賞授与式（於霞会館）に落合館長・小林学芸部長が出席。
- 11月9日、空調機を修理。
- 11月29日、勸徳川黎明会会長徳川義宣氏の葬儀（於護国寺）に落合館長・小林学芸部長が参列。
- 12月2日～6日、「山内一豊とその妻」展の用件で、小林学芸部長が蒲郡・刈谷・岐阜・森町・掛川・榛原・浜松及び静岡市内に出向。
- 12月16日～17日、特別展観借用資料の点検・運搬のため、小林学芸部長が勸徳川記念財団へ出向。
- 12月19日、館内の温度を 20℃に変更。
- 12月21日～22日、「山内一豊とその妻」展の飾り付けに小林学芸部長が江戸東京博物館へ出向。
- 12月25日、特別展観の飾り付けが行われた。
- 12月26日、読売新聞・静岡新聞の記者が特別展観の取材に来館。
- 12月29日、中日新聞が特別展観を取材。
- 1月4日、「戦国武将のよそおい」展の飾り付けに小林学芸部長が佐野美術館へ出向。
- 1月25日、特別展観の撤収。
- 2月6日、「山内一豊とその妻」展の資料撤収に小林学芸部長が江戸東京博物館へ出向。
- 2月7日、「戦国武将のよそおい」展の資料撤収に小林学芸部長が佐野美術館へ出向。
- 2月8日、能美防災が館内を点検。

- 2月12日、静岡市ピーアールビデオ制作のため、(株)エスビーエスプロモーションプロダクション事業部池谷征吾氏等が重文洋時計・白檀塗具足等を取材・撮影。
- 3月2日、特別展飾り付けに勸徳川記念財団理事長徳川恒孝氏夫妻等来館。
- 3月11日及び16日、特別展を静岡新聞・読売新聞が取材。
- 3月29日、空調機のフィルターを交換。
- その外、この期間に下記の方々が来館した。

真嶋健一氏（長岡市、4月5日）、北村喜久男氏（富士浅間神社資料館、4月8日）、鵜田孝一氏（艸藝社代表取締役、4月15日、8月27日及12月2日）、太田寿男氏・深谷五十鈴氏（笠間稲荷美術館、4月21日及6月3日）、星野藤雄氏（日光東照宮、5月23日及9月27日）、柴田宜孝氏（日光東照宮、5月23日）、小嶋善吉氏（静岡市長、5月26日）、堀江登志実氏（岡崎市美術博物館、6月3日）、松岡明子氏（香川県歴史博物館学芸員、6月11日、10月6日及11月28日）、野村美紀氏（香川県歴史博物館学芸員、6月11日）、津村健氏（NHK 事業局、6月30日）、原史彦氏（江戸東京博物館学芸員、6月30日）、天野忍氏（前春野町教育長、7月10日）、植松俊男氏（日通静岡美棚、7月22日）、杉山元衛氏（元静岡県史調査委員、8月18日）、蒲田正人氏（鳥居会幹事、8月21日）、秦井良氏（静岡県立美術館学芸員、9月9日）、山作良之氏（日光東照宮、9月27日）、清沢謙一氏（フォートグラファー、10月4日）、高原氏一行（SBS、10月7日）、堀哲人氏（清水総合保険代表取締役、10月14日）、織田元泰氏（常葉学園大学教授、10月29日）、高木文恵氏一行（彦根城博物館友の会、10月30日）、辻維周氏（コーディネイト、11月20日）、山科芳夫氏（NHKプロモーション、12月5日）、河内えり子氏（佐野美術館学芸員、12月19日）、井上明美氏（岡崎市、12月20日）、徳川斉正氏・真木氏（財水府明徳会会長夫妻、1月3日）、姜南周氏（朝鮮通信使文化事業会、1月17日）、柳鎮玄氏（四溟堂記念事業会、1月17日）、芳野才利氏（下田開国記念館、1月18日）、渡辺妙子氏（佐野美術館長、2月8日）、米田頼司氏（和歌山大学助教授、2月27日）、北村欣哉氏（元静岡県史調査委員、2月28日）、河宮内耕作氏（岩手県立博物館友の会、3月9日）、広瀬公威氏（勸徳川記念財団事務局長、3月29日）。



博物館の名品 41

鶏図（にわたりのず）一幅

徳川家綱の絵画への執心は有名で、常に狩野探幽、永真、安信等を召して絵事に興じたといわれている。家綱の筆になる作品の中で最も多いのが鶏を画題としたもので、『寛政重修諸家譜』に記されている拝領者だけでも、松平正成・丹羽氏定・石川浄次・坂本重治・土岐頼殷・朽木則綱・永井元孝・阿部忠秋・本多忠朝・戸田氏鉄・三宅康広・大草高盛・人見宜郷・小出守里・佐田定重の十五人を数えている。

本図の伝来経緯は詳かでないが、これを納める二重箱の内箱の蓋表には「慶安貳六月二日大納言様御筆鶏」とある。銘文より推して、この箱書は家綱在世中のものと解される。さすれば、家綱の大納言時代、九歳の筆と知られる。「化現の人」と呼ばれ、約束された次期将軍として周囲の期待を蒐めた幼君家綱の、穏やかな日常生活の一端をかいまみる思いのする小品である。

紙本墨画 縦 28.8cm 横 40.2cm



博物館の名品 42

西洋風景（せいようふうけい）一面

徳川慶喜筆として小日向第六天町の徳川家に伝来した油彩画。

背後に雪山を望む溪谷の、岩山の滝を落ちた水が勢いよく流れ込むあたりにアーチ形の石橋がかけられている。橋上には通行する三人の人物の姿が見え、後方を歩むロバの背の重荷まで認められる。慶喜は渡航することなく一生を終えたので、この西洋風景は外国の絵画や写真を模したものとみられるが、細部に至るまで丹念に描かれており、慶喜が真剣に油絵の技法の修得を心がけていたことが窺われる。

縦 52.0cm 横 36.0cm

昭和50年8月 徳川慶朝氏奉納



博物館の名品 43

萌葱絲素懸威具足（もえぎいとすがけおどしぐそく）一領

黒熊毛植の鍬形を付けた鍔地六十二間筋兜に、黒塗皺革包の碁石頭鉄切付伊予札を萌葱糸で素懸に威し、立挙前三段・後四段・衡胴五段に草摺を七間四段とする二枚胴と、目の下頬当、置袖を加えた毘沙門籠手、脇引、伊予佩盾、三本筒臍当を完備した具足で 替小具足の半籠手・芝摺白熊植の伊予佩盾、七本篠臍当もある。この具足は、万延元年（1860）七月の『御召御具足御注文』が遺っており、岩井与左衛門の作になる十四代將軍徳川家茂の召料であることが知られる。

兜鉢前後径24.8cm 胴前高34.2cm 胴廻102.9cm 総重量16,380g

久能山東照宮博物館報

—— 第 19 号 ——

平成18年9月17日 発行

編集発行 久能山東照宮博物館
〒422-8011 静岡市駿河区根古屋390
TEL. 054(237)2437

印刷 有限会社艸藝社
〒104-0041 中央区新富1-15-14
TEL. 03(5540)6421